

# 島国根性 理念の不在 固定観念の呪縛

「地球規模の課題を、地球規模の方法で解決する」ことへの貢献が問われている時代

地球規模の視野からの解決方法を提案し、他国を巻き込んで取り組むことが「国益」となる時代

日本の「島国根性」が、＜左右から＞貧困をなくすための＜日本の努力＞の構築を阻んでいる

日本は日本のことだけ考えていればよいという、「相互依存」を無視した一  
国主義的な観点

「固定観念」による呪縛：「顔の見える援助」の欺瞞が日本を無力化してきた

援助も「日本の利益」を追求すればよいという、新興国的な認識 = 世界第  
2の経済大国という日本のインパクトを無視 日本将来への飛躍の芽も潰す

こと「援助」に関しては、「どうせ何も出来ない」「悪しか為せないならやめてしまえ」という旧来の援助批判も、「よい援助」の形成を妨げてきた

その結果、日本の援助理念は、90年代にせっかく掲げた「人間の安全保障」を具体的な意味で生かすことが出来ず、これを「空虚な中心」に祭り上げてしまっている

# <上流> 改革：援助理念を鍛えよ

## 多国間で「援助理念」を鍛えよ

ガラパゴス化した<左右の>「日本らしい援助」を棄てて、本気で多国間で勝負すること。世界に通用する言葉を見出すこと。

「人間の安全保障」を、「建前」から脱却させること。「経済成長による貧困削減」という新興国まがいの「本音」を棄てて、「人間の安全保障」でどう勝負できるか考えること

歴史を見極めること、「アジアの成功をアフリカへ」を棄てよ。そこにこっそりと利権をもぐりこませるのをやめること。

## 「理念」と「実践」を統合せよ = 金の流れる「水道管」を組みなおせ

# 援助の「言の葉の幸わう国」脱却

## 理念に基づき、金の流れを根本的に変革せよ

ODA大綱、中期計画、国別援助計画 = 何も変わらない 旧来の金の流れが「細く」なるだけ。利権はずっと密輸入

## 政策を実践に大胆に結びつけよ

世界エイズ・結核・マラリア対策基金、「洞爺湖サミット」の経験 政策面での成功を、旧態依然の「二国間援助」が阻む

「外務省 JICA 民間」の「ODA本体事業」を相対化・解体せよ

<技術協力、人づくり> = ドグマに基づく無意味なアイデンティティを解体せよ

貧困をなくすための援助は、大胆に「政策」と「援助効果」で『点の援助』から『面で成果を出せる援助』へ！ = 財政支援・セクター支援への大転換を

具体的な援助の実施は、既成のシステムを解体し、NGOに大胆に移行せよ

必要なのは、政策と実施の一元化：政策を実施に移せる体制の確立を。国際協力省の早期創設と、前向きなODA理念に裏打ちされた基本法の制定を

世界が直面する巨大な過渡期：日本も自ら立ち、「歴史」に一步を踏み出すべきとき